

11/11 上士幌町東京会 12/2 札幌上士幌会

上士幌町出身者や元在住者で東京近郊に住む方々の集まりである、「第34回上士幌町東京会総会(石川司会長、会員278人)」が11月11日に、ニューオータニイン東京で開催されました。

会には来賓を含め50名が参加し、10月に開催された「上士幌まるごと見本市ツアー」に参加された3名の方も出席しました。上士幌の思い出を話し合ったほか、ビンゴ大会も行われました。

12月2日には「第11回札幌上士幌会総会(上田静夫会長、会員205名)」がホテルポールスター札幌にて開催され、28名が参加されました。会の中では、思い出話とともに、上士幌町出身の歌手水木ジュンさんの歌で盛り上がりました。



11/12 「たいせつな いのちの きょうしつ」開催

11月12日、ふれあいプラザで年長さんと保護者の方を対象に「たいせつな いのちの きょうしつ」を開催しました。

生教育支援チームから「いのちのもと」についてのお話や絵本の読み聞かせを行い、子どもたちが一人ずつ「いのちのトンネルくぐり」を体験しました。保護者の方からは「子どもに命のことを伝える良い機会になりました」という感想が聞かれました。



11/20 上士幌中 五十嵐さん 柔道全道大会出場

第24回横井七之助旗争奪北海道中学校柔道新人団体優勝大会(11月25日、札幌市)に出場する五十嵐舞桜さん(上士幌中1年)が教育委員会を訪れ、大会への意気込みを語りました。

五十嵐さんは「57kg超級に出場するが、練習の成果を発揮して、1勝でも多く勝ちたい」と話してくれました。

役場の新人紹介(地域おこし協力隊員)

- ◆名前: 遠田 健太郎(42歳)
- ◆職種: 観光戦略マネージャー(商工観光課)
- ◆出身地: 札幌市

初めまして、地域おこし協力隊の遠田と申します。小さなことからコツコツと地域の皆様と一緒に良い町になるように取り組んでいきたいと思っております。



11・12月の まちのわだい

- ①ミュージックサイト
- ②菟ヶ岡小学校開校100周年・閉校記念学習発表会
- ③第40回会長杯争奪トランポリン競技選手権大会(ほのぼのクラス・幼児)出場 北澤星来さん(写真右)優勝 小林滯さん(同左)3位
- ④菟ヶ岡小学校開校100周年・閉校記念 自衛隊音楽隊コンサート
- ⑤上士幌中学校開校70周年記念式典
- ⑥100歳おめでとう!!

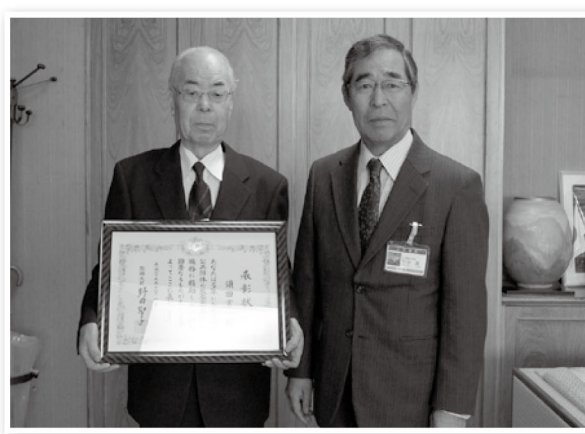
11/2 こども園園児が食育教室に参加

11月2日、役場の農林課や保健福祉課、教育委員会などが構成する、「食育ネットワーク」主催の食育教室が農業技術研究センターで行われ、認定こども園の年長児が参加しました。

教室では、園児たちに上士幌町の基幹産業である農業について知ってもらおうと、見た目の異なる数種類のじゃがいもの観察や、バター作り体験が行われました。体験終了後、JA 青年部の方から、じゃがいもにはどのような品種があるのか、また、どのように育ち、どのような製品になって食卓に並ぶのかなどを学びました。

最後に、自分たちで作ったバターをつけてじゃがいもを試食し、見た目だけではなく、品種による味の違いも確認しました。





12/11 須田吉一さん、総務大臣表彰受章

平成11年から平成23年までの12年間、監査委員を務められ、地方自治の発展に貢献したとして、須田吉一さんが「監査事務功労者総務大臣表彰」を受章され、竹中町長より伝達されました。

須田さんは「こんな表彰をいただけるとは思わなかった。嬉しく思います」と話されました。

12/11 鈴木近彦さん、瑞宝双光章受章

長年、消防団員として貢献したことにより、鈴木近彦さんに「瑞宝双光章」が十勝総合振興局の坂部副局長より伝達されました。

鈴木さんは「42年間消防団員として活動してきたが、町民や関係者の皆さんのおかげで続けることができました。」と話されました。



11/20 ミニバレー協会 松井晴男さん  
全日本ミニバレー協会「ポールスター賞」受賞

ミニバレー協会に所属している松井晴男さんへ、全日本ミニバレー協会から75歳以上のプレイヤーで生涯スポーツミニバレーの模範となる方へ贈られる「ポールスター賞」が贈られました。

松井さんは「43年間ミニバレーを続けてきてよかった。仲間や周りの方に支えられて続けることができました」と話されました。



11/20 商工会女性部が子育て支援センターへ図書券を寄付

上士幌町商工会女性部(野村恵子部長)が、子育て支援センターへ図書カードを寄贈しました。

子どもの絵本購入などに充ててもらうため、毎年行っている取り組みで、昨年は学童保育所へ寄贈を行っています。

野村部長は「絵本で子どもたちに楽しんでほしい。子どもの成長の一助になれば」と話されました。



11/22 JA青年部がジャガイモを給食センターへ寄贈

JA上士幌町青年部(伊藤浩晃部長)が上士幌町給食センターへ「きたひめ」80kgを寄贈しました。これは、上士幌で作られている野菜を子どもたちに知ってもらい、食育へとつなげるために行われている取り組み。

伊藤部長は「子どもたちに喜んで食べてもらえたら嬉しいです」と話していました。

12月13日には、寄贈されたジャガイモを使ったカレーライスでJA青年部と荻ヶ岡小学校の児童が一緒に食べ、交流しました。



12/6 那須襄太郎さん、日本赤十字社より表彰

上士幌町赤十字奉仕団元委員長の那須襄太郎さんへ、日本赤十字社北海道支部より「社業功労者支部長特別表彰」を受賞し、竹中町長から伝達されました。

これは、長く赤十字の活動に携わった方に贈られる賞で、那須さんは「これまで町のボランティアを活躍にするため仲間とともに夢中で取り組んできた。今後は、これから担う方たちのボランティア活動に期待したい」と話されました。

## 地域を変えていく新しい力 地域おこし協力隊活動報告



TITLE: 1年間の活動を通して

記: 地域ブランドデザイン推進員 高野 沙月

2017年も残りわずかとなり、私が上士幌町にやってきて早くも1年以上が経ちました。仕事でもプライベートでもたくさんの方々にお世話になり、本当にありがとうございました。

この1年で手がけた自分の仕事を振り返ると、商品のパッケージやポスター、パンフレット、ロゴマーク、缶バッジ、インターネット用バナーなどなど…さまざまな仕事に携わらせていただくことができました。課を問わず仕事をいただくことも多く、毎日何かしらを作って過ごしています。その活動の一部をご報告します。

《べこぼっこ。》十勝製菓株式会社様から7月に発売されたお菓子です。ネーミングからパッケージデザインまで携わらせていただきました。複数提案した中から「べこ(牛)」「ぼっこ(棒)」という北海道の言葉を使った商品名が選ばれました。濃厚な味のお菓子なので冬の定番になればと思い、パッケージには冬の寒さをイメージしたノルディック柄をあしらいました。こちらは上士幌町の新しい特産品として、ふるさと納税でもご好評をいただいています。

《ぬかびら源泉郷の冬のポスター》ポスターなどの町外の人にも見られるものは、上士幌町らしさを出すことを心掛けています。

今後も、上士幌の魅力デザインを通して発信していきたいと思っています。



▲十勝製菓「べこぼっこ。」パッケージ



▲ぬかびら源泉郷の冬のポスター

# 町民(文)芸

## 川柳

恵方より犬の遠吠え初日の出

坂田 いさ子

## 短歌

戦後すぐ友もない山村の小学校に我は通ひき  
 下駄履きの躑躅の縁を鳩ひとつ何かひたすら啄みたる  
 今がいま思ひるしことのはや忘れぬ己が不思議におどろく  
 一人居の突然に孫夫婦来たり二人のひ孫とにぎにぎあそぶ  
 今朝は雪降り積る夕べより親ゆびのあかざれ痛し  
 極月や心そうじも手がけたくあたふたしつひと一言やわしき  
 家の中大掃除する時忘れ何度も見直し仕上り良きと  
 初詣おみくじ引いて吉と出る木に結びたりていい年願う  
 お掃除の仕事をするで図書館に休けい時間楽しく本よむ  
 清掃の仕事でわかかの床をふく午後を頑張り仲間と一緒に

鈴高米松尾 高本石  
 木木森田野 木間川  
 誠真理よし 慶 栞 裕  
 豊也弓恵乃 子 風 子



◎ 今回の表紙の写真は、朝7時前に航空公園にて撮影しました。朝日の撮影スポットを探していたところ、ちょうど熱気球のトレーニングをしているところに遭遇し、シャッターを切りました。気球と朝日の美しい光景に思わず感動!! 早起きして良かったです。…M

◎ 11月から「熱気球」やっています! たくさんの方にお世話になり、いつかパイロットとして飛べる日を楽しみに、上土幌のためにも頑張ります! …K



広報 **がみしほろ** 2月号は 1月25日(木) 発行予定

### 平成29年 11 月末現在の人口

男性	2,417人(0人)
女性	2,547人(-4人)
人口	4,964人 (-4人)
世帯数	2,492世帯(-6世帯)

### 平成29年度 ふるさと納税寄付金

11 月分	10,428 件 204,082,100 円
累計	42,958 件 764,706,208 円

※全国より本町に篤志寄付の応援をしていただき心より感謝を申し上げます。

### 上土幌町民憲章

- 1 心もからだもきたえ、すこやかな人になりましょう。
- 1 おたがいに立場を理解しあい、楽しい家庭をつくりましょう。
- 1 きまりを正しく守り、明るい社会をつくりましょう。
- 1 自然を愛し、美しく住みよいまちにそだてましょう。
- 1 文化をたかめ、豊かな郷土を築きましょう。

## 特集 上土幌高校「上土幌学」

上土幌学の集大成として、12月14日に上土幌学活動報告会が生涯学習センターわかにて行われました。

4月から学んだことを生徒たちが資料にまとめ、熱気球や町の特産品などを紹介。生徒は「見やすいように文字を大きくしたり、聞きやすい発表を心掛けました」と笑顔で話してくれました。

また、ピザとワインの店パピリカの井上店主協力のもと作成した新メニューの抹茶クリームと白玉、粒あんをピザ生地で包んだピザやアーチ橋をモチーフにしたパウンドケーキなどを振舞い、参加者からとても好評でした。



## 上土幌学とは?

平成26年に上土幌高校がユネスコスクール\*に認定されたことから、持続可能な開発のための教育を推進する一環として、地域を理解する教育が昨年度より始まりました。

町の自然や歴史、特産品などについて学び、地域を知る取り組みが始まっています。

\*グローバルなネットワークを活用し、世界中の学校と交流することで、生徒間・教師間で情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すもの。

## 上土幌高校新聞局 通信 月刊 上高



11月17日(金)に恒例のアンビシヤス講話が行われました。今回講話に来て下さった9名の卒業生の中で、土幌町立特別養護老人ホーム「ほほえみ」に勤務する妹尾朱美さん(25)が介護福祉を目指したきっかけは、高校生の時の介護実習で老人ホームで衝撃的な出来事があり、それ以降この業界の奥深さを知ったことだそうです。

講師を引き受けて下さった理由を尋ねたところ「若い世代との交流ができる良い機会だと思ったからです。また介護職は、あまり良い印象を持たれていないため、この仕事が魅力のあるものと言うことを皆さんに伝えたいからです」と介護への強い思いが見えました。「自分がどんな人になりたいか、何をすべきかと言うことを常に意識して生活して欲しいです。色々な技術を身につけていって、将来の土台を作る事が大切です」と自分の高校時代を思い返すように語ってくれました。

11月17日(金)  
アンビシヤス講話

文責 横澤 梨乃